

氏名	にしやま のりこ 西山 紀子
学位(専攻分野)	博士(工学)
学位記番号	博甲第924号
学位授与の日付	平成31年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科 建築学専攻
学位論文題目	院内助産システムにおける妊産婦ケア空間の最適化に関する研究
審査委員	(主査)教授 鈴木克彦 教授 阪田弘一 教授 長坂 大 京都橘大学現代ビジネス学部 教授 松本正富

論文内容の要旨

本論文は、医療施設内において医師と助産師が適切な役割分担を行い自然分娩を推進する周産期医療体制としての「院内助産システム」に着目し、妊産婦ケア空間の最適化をはかる空間計画と環境整備のあり方を提示しているものである。

全体で7章により構成されており、第1章では、研究の背景、目的と意義、及び関連する既往研究の紹介と本研究の位置づけについて述べている。また、調査方法や調査結果の扱いについて、京都橘大学及び各医療施設の研究倫理委員会の許可を得て実施した旨を記している。

第2章では、院内助産システムにおける妊産婦ケア空間の特性を把握することを目的に、開発、導入の経緯や運用の方法等の概要を文献調査によって明らかにするとともに、分娩環境の歴史的変遷をたどり、今日の院内助産システムにおける妊産婦ケア空間の位置づけについて述べている。また、分娩環境に対する妊産婦の欲求を整理し、妊産婦ケア空間の最適化をはかることの意義と必要性について論じている。

第3章では、妊産婦ケア空間の空間計画上の要点と院内助産に適した空間構成とするための配慮に視点を置いた現地調査の成果を報告しており、分娩空間は分娩様式と既設の産科に対する空間的独立性とから6つの基本形態タイプと4種の室形式となることを抽出している。さらに入院室についても、産科に対する空間的独立性、室形式、分娩空間からの移動有無の条件から5タイプの室形式を導出している。

第4章では、院内助産における分娩空間に対する評価実態について、助産師を対象としたヒアリング調査の結果を明らかにし、その内容をプロトコル分析することによって、産科医療下とは異なった院内助産に適した分娩環境とするための整備要件を明らかにしている。

第5章では、院内助産システムにおいて使用する諸室について、各室の環境整備に対する満足度についての妊産婦と助産師を対象としたアンケート調査の結果に基づき、現状の環境整備に対する満足度と整備要件との関連性を多変量解析によって明らかにしている。

そして第6章において、本研究で得られた検証成果を根拠に、院内助産の分娩空間の改善に向けた空間計画と環境整備の具体的な要件を明らかにしている。そして、助産行為に関わる「機能性」、生活行為に関わる「環境性」、個人的行為に関わる「プライバシー」の側面から、院内助産システ

ムによる妊産婦ケア空間の最適化に向けた各室の環境整備要件について提示している。

最後に第7章では、結論として本研究によって得られた主要な成果と今後の課題を取りまとめている。

論文審査の結果の要旨

本論文を構成している7つの章は、日本建築学会学術論文誌に審査を経て掲載された2編の論文を中心としている。

産科医療分野においては、医療施設内に「助産外来」と「院内助産」を設け、医師と助産師がその業務内容の根本的相違に立脚して適切な役割分担を行い、自然分娩を推進する周産期医療体制の整備が求められている。本論文は、この「院内助産システム」に着目し、実証研究をふまえて妊産婦ケア空間の最適化をはかる空間計画と環境整備のあり方を提示しているものである。

まず本論文では、院内助産システムにおける妊産婦ケア空間の特性を把握することを目的に、院内助産システムの開発、導入の経緯や運用の方法等の概要と分娩環境の歴史的変遷をたどり、今日の院内助産システムにおける妊産婦ケア空間の最適化をはかることの意義と必要性について述べている。そして、従来の産科医療空間とも助産所空間とも異なり、分娩を日常生活の営みの一つとして捉えようとする新たな価値観に適応しつつ、必要時の医療介入を可能とする安全性の高い妊産婦ケア空間とすることの必要性を論じている。

本論文では、院内助産システムにおける妊産婦ケア空間の改善に向けた空間計画と環境整備の要件を明らかにするために現地調査を実施しており、その研究成果により、分娩空間は分娩様式と既設の産科に対する空間的独立性とから、医療優先の産科的空間から居住環境重視の助産所的空間までの6つの基本形態タイプに分類され、これらに対応する室形式として4種あることを導出している。さらに入院室についても、既設の産科に対する空間的独立性、室形式、分娩空間から入院室への移動の有無により5タイプの室形式に分類されることも明らかにしており、院内助産固有のものである院内助産分娩空間併用タイプでは家庭内分娩に一層近い環境が確保されていることを述べている。

続いて、妊産婦と助産師による分娩空間の評価結果から、産科医療下とは異なる院内助産に適した分娩環境とするための整備要件に関して、家庭的環境の創出による妊産婦の心理的安楽さや分娩空間の整備による身体的安楽さに対して高い関心があること、より産科に近い分娩空間タイプでは家庭的環境の創出に、より助産所に近いタイプでは分娩空間装備に関心が高いこと、入院室の整備に対して助産婦はプライバシー確保や指導と看護に向けた個別的対応環境の必要性を意識している傾向があること等を導き出している。さらに、院内助産システムにおいて使用する諸室の環境整備と満足度との相関関係から、妊産婦の居住環境、助産師の業務環境のどちらにおいても、検診時や分娩時の空間環境の整備が広く満足度に関連していることを明らかにしている。また、妊産婦は分娩や入院生活行為に対するスペースの充足を、助産師は身近に接する家具等の人間工学的側面を重視する傾向があることを解明している。

結論として、本研究で得られた検証成果を根拠に、妊産婦ケア空間の基本形態タイプと施設概要の関係性とから、環境整備の具体的要件として、分娩時の妊産婦の心理的安楽さや身体的安楽さに対して配慮すべき事項、院内助産の分娩空間の改善に向けた空間計画と環境整備の条件を明

らかにしている。さらに妊産婦と助産師の意識分析から、助産行為に関わる「機能性」、生活行為に関わる「環境性」、個人的行為に関わる「プライバシー」の指標を抽出し、院内助産システムによる妊産婦ケア空間の最適化に向けた各室の環境整備について、居住環境面と業務環境面から満足度に影響力を持つ要件を提示している。

以上のように、本論文は建築計画学的アプローチに基づく緻密なフィールド調査による実証研究の成果を根拠に、院内助産システムにおける妊産婦ケア空間の整備のあり方を提示していることから、今後の施設整備において空間計画や環境整備の資料として活用されることが期待でき、先導的で応用可能性があり、大きな学術的価値を有するものと認められる。

本論文の内容は、以下の2編の学術論文に報告されている。

- 1) 西山紀子、遠藤俊子、松本正富、鈴木克彦：院内助産における分娩空間の類型と環境整備の要件－院内助産システムにおける妊産婦ケア空間の最適化に関する研究・その1、日本建築学会計画系論文集、第81巻第727号、pp.1877-1886（2016）
- 2) 西山紀子、遠藤俊子、松本正富、鈴木克彦：妊産婦と助産師の評価にみる助産空間の環境整備要件－院内助産システムにおける妊産婦ケア空間の最適化に関する研究・その2、日本建築学会計画系論文集、第83巻第752号、pp.1877-1886（2018）